

# 「馬場の松」の今

校歌にも颯爽と登場し多くの鶴城生にとって特別な思い出もあろうと思われる馬場の松。私共31回生が通った当時（昭和51年）にその姿はなく、校歌斉唱で『城山の松、馬場の松…』と、幾度となく歌いながら心の中でその勇壮な姿を想像したものである。

その馬場の松が有志の先輩方のご尽力により、昭和60年に再建された。佐伯鶴城を愛する同窓生にとどめてこの上なく嬉しい出来事であった。

しかしながら再建から約40年、ふたたび存亡の危機を迎えている。松にとっての天敵である松食い虫に侵され無念の伐採が相次いでいる。さらには全同窓生から寄付していただいた浄財により運営する馬場の松基金もピンチである。馬場の松の管理に要する費用は年間約50万円。さらに伐採に要する費用は一本10万円。この一年で一気に枯渇の危機を迎えている。

誇らしい母校のシンボル・松食い虫・予算…、頭を抱えながらも我々同窓生がこれからの佐伯鶴城高校の後輩たちに残せるものは何だろうか。



# 山次女舞鶴

発行 会  
佐伯鶴城同窓会  
会長 谷川憲一  
編集 会  
広報 委員会  
印刷 刷  
(有) 岡 沢 印 刷



今年1月、同窓会本部が主催する校内施設見学会に新米評議員として参加した。卒業以来、子どもの行事で体育館と教室だけは何度か入ったことはある。生物教室では、当時生物部員だったので、文化祭の時に大入島からいろんな植物を採取して展示したことを思い出した。化学の授業では最前列の席だったことから、先生から「はい、はい、そこ」と毎回あてられ緊張の連続だった。図書室も案内してもらったが、懐かしさがっている参加者を尻目に、恥ずかしながら全く記憶がない。なんとという学生だったのか！

我々の時代にはなかったのがコンピューター教室である。最新鋭のパソコンがずらっと並んでいて圧巻だった。当時は撮影スポットになっていた中庭の池はなくなり、創立百周年記念中庭になっていた。案内していただいた教頭先生から、途中探究授業やSSHの取組などを伺った。学校の中だけで学びが完結していた我々の頃とは違って、今の生徒は外の世界にも目を向けてチャレンジしていて頼もしい。母校の今を垣間見ることができ、少しでも母校や後輩を応援したいという思いがフツフツと湧いてきた。折しも翌2月に還暦同窓会が開催され約70人が集まった。40年ぶりの再会も多く、大いに盛り上がった。いろんな経験を重ねてきたせいも、みんな角が取れて丸くなっている。高校時代にあまり話したことがなかった人と話せるのも同窓会のいいところだ。今はLINEという便利なツールで、同窓会を機に同級生と気軽につながる事ができる。なんだか世界が少し広がった気がして嬉しくなった。テーブルを回り恐る恐る後輩鶴城生への応援募金をお願いすると、みんな喜んで協力してくれた。心残りは、全員で輪になり肩を組んで校歌を歌うのを忘れていたことだ。鬼に爆笑されるかもしれないが古希の同窓会の楽しみにしておこう。

山崎 吉明 (高34回生)



## 馬場の松

# 変わらないもの 変わったもの 変わりつつあるもの

評議員の  
皆校内見学

1月27日(土曜日)、4年ぶりに開催された評議員への報告会は、数年前からの計画でもあり、コロナで実現されなかった「学見学」の一部に取り入れられました。約一時間かけて校内を観て回り、参加者からは好評を得ました。

27日(土)15時30分に母校に集合(17人)

我が子の卒業以来、中には50年60年ぶりという方もいて、それぞれ、どきどきしている様子も伺えました。案内は加藤教頭先生、萩原教頭先生、事務局の三原先生が一緒です。

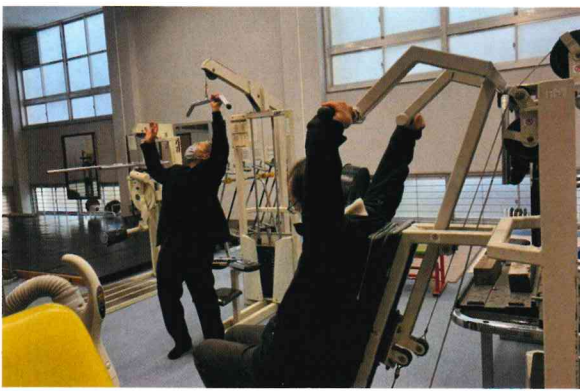


同窓会も働きかけて設置されました。馬場の松を見上げながらトレーニングセンターまで歩き、体操部・剣道部・野球部の練習風景に声援を送りました。何十年たっても変わらないもの、たった数年で変わったものに、皆さんが母校を懐かしみ、在校生の今を知ることができた貴重なひとときでした。

第2部は場所を変えて、スライドを見ながらの説明。

昨年度の国立合格者一〇一人に喜び、迫りくる少子化に危惧しつつ、同窓会の活動を振り返りました。

懇親会のフィナーレは肩を組んでの校歌大合唱!!。一番最後はまた来年も、いや、総会で会おうと約束し無事に終了しました。



※評議員さんは各学年に正副数名いらつしやいます。自分の学年の評議員はどなたか?

また、自分が評議員だったと知らなかったということはありませんか? 今後の課題でもあり、まずは案内が来たならば出席してみてください。



校長室前から歩きだして先ず目に飛び込んできたのは、創立百周年記念に造られた中庭です。シンボルツリーを中心にベンチが配置され、公園のような佇まい。「我々の頃は暗くて真ん中に池があった」としばらく当時の話に花がさきました。ここは4階から見下ろすとさらにはつきりと全体像が見えました。懐かしい50メートルプールの横には25メートルの温水プール、礼儀正しく生徒がお辞儀してくれました。管理棟にある図書室の明るさやパソコンを導入しての教室は時代を実感しました。

反対に変わらないものの一つの体育館に移動。外にある洋式の水洗トイレは

# 関東佐伯鶴城同窓会

令和五年五月十三日(土) 十二時  
東京グリーンパレス宴会場にて開催されました。  
参加人数 78名



## 式次第

- 総会の部
- 開会のご挨拶 関東佐伯鶴城同窓会 会長 江藤洋一氏
  - 総会議案 関東佐伯鶴城同窓会 副会長 木下幹巳氏
  - 来賓のご挨拶 佐伯鶴城同窓会 会長 谷川憲一氏
  - 記念講演 元中日ドラゴンズ 社長 21期 矢野博也氏
  - 元大分トリニータ 社長 29期 榎徹氏
- 懇親会の部
- 乾杯 関東佐伯鶴城同窓会 顧問 谷川禎治郎氏
  - 校歌斉唱 懇親会
  - 中締 関東佐伯鶴城同窓会副会長 増永ちどり氏

同窓会を予定している学年の方は事務局まで連絡下さい。会報を用意させて頂きます。又、写真を下さればホームページに掲載させて頂きます。



# 関西佐伯鶴城同窓会

令和五年九月十日(日) 十二時  
ホテルヴィスキオ尼崎にて開催されました。  
参加人数 46名

- 式次第
- 特別公演 桂塩鯛師匠独演会 落語「青菜」
  - 総会 黙禱
  - 令和元年〜5年度収支会計報告
  - 会長挨拶 会長尾田虎二郎(27回卒)
  - 来賓紹介 佐伯鶴城同窓会会長 谷川憲一氏
  - 来賓挨拶 佐伯鶴城同窓会副会長 箱崎公彦氏(23回卒)
  - 乾杯 副会長 児玉幸寿(28回卒)
  - 宴会
  - 大抽選会 佐伯鶴城同窓会会長 谷川憲一氏(23回卒)
  - 関東佐伯鶴城同窓会会長 江藤洋一氏(21回卒)
  - 福岡佐伯鶴城同窓会副会長 箱崎公彦氏(23回卒)
  - 大分県大阪事務所次長 井上卓也氏
  - 桂塩鯛師匠
  - カラオケ大会(各テーブルから一名、自薦他薦)
  - 河内男節歌・木許清香 踊り・諸角昭枝
  - 写真撮影【集合写真をプレゼント】
  - 校歌斉唱
  - 閉会挨拶 幹事 林國之(16回卒)

今年同窓会が開催された学年から寄付をいただきました

19回生	38,686円
34回生	42,786円
38回生	52,040円
74回生	21,080円

ありがとうございました!



# 真帆片帆



校長 長野 雅樹

令和5年度に校長を拝命いたしました長野雅樹です。同窓会の皆様におかれましては、日ごろから物心両面でのご支援を賜り感謝申し上げます。このたびは、今の高校生に期待している私の思いを述べる機会を与えていただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。

「遠慮すること」

高校生にとって大切なものは何ですか？と聞かれたとき、私は「遠慮すること」と答えている。この質問をした人は、この

言葉を聞いて怪訝そうな顔をすること。そんな時に私は「遠慮すること」の意味を問いかける。ほとんどの人が決まって「一人に対して言動を控え目にすること。」や「それとなく断ること。辞退すること。」と答える。確かに「遠慮する」という言葉にはそういう意味がある。しかし、広辞苑を引いてみると最初に現れる意味は「遠い先々まで考えること。深い考え。深謀」。

この話で私は2つのことを伝えるようにしている。まず一つ目は、高校生にとって必要なものは遠くを慮ることの大切さである。自分の将来を見据えてどんな進路を選択し、学習やその他の取組でどんな力をつけて進路目標を達成し、進路先でどのように自己実現につなげるのか。これらを想像力を働かせて考えることがまさに「遠慮すること」である。

次に2つ目だが、この話で「学び方のポイント」も伝えている。一つの言葉にも多くの意味があるように、子ども達が出会う「問い」にも多くの解法がある。子ども達が生きていく社会は多様で不確定なものが多く「唯一解」を導くことが困難だと言われている。獲得した知識をそのまま使うのではなく多くの知識を整理・統合・創造することで、「最適解」のヒントが見えてくる。知識を知恵に換えられる深い学びが必要となるのである。

是非とも、佐伯鶴城高校の生徒達には、「深謀遠慮」と「深い学び」を心がけて、自分を成長させて欲しいと考える。

以上でございます。今後とも引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

## 全国大会出場・表彰者

### 陸上競技部

- 宮脇 英 200m インターハイ出場 準決勝進出
- 安東 優稀 砲丸投 インターハイ出場
- 佐藤 遥生 男子走り幅跳 JOCジュニアオリンピックカップU18 5位

### 体操部

- 藤澤 菜生
- 関山 拓海
- 高橋 暁人 インターハイ出場
- 宇都宮 巧
- 染矢 蒼隼

### 弓道部

- 三崎 ころろ インターハイ出場

### 書道部

- 金山 結華 第72回書道中央展 最優秀賞 第48回全国高等学校総合文化祭出場

### 剣道部

- 女子団体 全国高等学校剣道 選抜大会出場

これからも益々のご活躍を 祈念しています！

## 同窓会費はいつでも受け付けています。

年会費 **3,000円** コンビニでも入金できます。

終身会費として、下記のような納め方もあります。

終身会費 (現在70歳から79歳の方は、**20,000円**)  
 (現在80歳以上の方は、**10,000円**)

加入者名	佐伯鶴城同窓会
口座記号番号	01740-6-47995
住所	〒876-0848 佐伯市城下東町7-1

同窓会費はこちらまで

## 同窓会は、会費と鶴城振興基金により下記の支援をしております。

- 大学訪問交通費支援 ○「鶴城未来塾」(同窓生を講師にした講演会)の支援 ○リーダー育成奨学金 ○部活動の補助
- 休日自主学习を指導する教職員に日当支援 ○予備校活用援助(特別講師の招聘、教師の研修・生徒派遣)等 ○会報の発行・送付

在学中によく登っていた城山が昨年より国指定史跡になった。佐伯城跡は「近世初頭に、それまでの城郭構造と築城技術を融合して築かれ、山体全体を維持してきた工夫が残る城郭として、我が国の近世城郭のあり方を知る上で貴重である」との理由だ。どうりで最近整備が進んでいる。

部活で何回も駆け登ったり、友人と散歩したりと思えば深い。そう言えばよく美術の授業でも行ったなあ。春祭りにはライトアップもされていた。佐伯市民のシンボリック存在「城山」みんなどんな思い出を持っているのだろうか。

(O・Y)

